

第4回総合計画審議会（H29.6.12）追加意見の概要

I 「基本目標(論点3)」について

基本目標のコンセプトの適否、より適切な要素はないか。

- 「確かな暮らしが営まれる美しい信州」が良い（現行プランと同じ）

【ご意見】

- ・「確かな暮らしが営まれる美しい信州」が良いと思う。

- 「確かな暮らし」＋「人生を楽しむ」という方向性で良い。

【ご意見】

- ・「人生を楽しむ」に抵抗感を持つ人がいるかもしれないが、基本的に異論はない。ポジティブに、明日を楽しみにしながらみんなが暮らせるのは大事なこと。
- ・「確かな暮らし＋人生を楽しむ」は、一言でいえば「豊かな暮らし」かと思うが、それは長野県の特長であり、基本目標の方向性として良いと思う。
- ・「確かな暮らし」＋「人生を楽しむ」は良い。人生を楽しむことができる多種多様な働き方。
- ・現実的な問題解決と着実な歩みをしていく必要もあり、長野県の特性を踏まえた「確かな暮らし」と「人生を楽しむ」という構想が必要。

- 未来や時代の変化に向かって進む意志が伝わるものにする。

【ご意見】

- ・時代の躍動感や変化を楽しみながら、自分達も変わっていく、という意志が伝わるワードにした方がよい。

例：未来に向けて、踏み出す。美しい信州

- ・「確かな暮らし」は最低限の暮らしを保障する、今の生活レベルを確実にやっていくというイメージで夢がなく、「人生を楽しむ」は、リタイア組のようで諦めムードを感じるため、未来が輝いている長野県に向かって進んでいこうという明るい基本目標に。

例：輝く未来を描く 今こそ長野県

- その他

【ご意見】

- ・おもて出しする言葉、尖った言葉を最上位のめざす姿に使ってはいかが。

例：信州を活かした学習県づくり、時代を先取りした農・産業の育成

- ・個人に焦点が当たっているように感じる。計画がめざす姿を実現するための目標なので、違う表現がいいのではないか。

Ⅱ 「現状認識(論点1)」「重点政策の方向性(論点2)」について

【現状認識 (論点1)】

○ 6月12日総計審での発言

● 追加でいただいた意見 (後日提出)

1 長野県を取り巻く状況

- 日本はアジア新興国の活力を取り込む必要がある。アジア新興国の台頭について記載すべき。
- 国内需要のみならず国外需要を踏まえた一次産業の振興が重要。
- 西洋の近代合理主義が壁にぶつかっている中で、日本の潜在力(文化、精神、生活スタイル等)を活かすチャンスが到来。
- Society5.0(超スマート社会)といった政府の方向性も踏まえることが必要。(濱田会長)
- 技術革新の急速な進展と同時に、人間固有の能力の重要性に触れているところが良い。
- 増加する外国人労働者への対応を考えることが必要。
- 「経済的な豊かさに重きを置かないライフスタイルへの転換」の記載は、経済成長を諦めた印象を受ける。
- 人生100年時代に健康増進という観点も入れてはどうか。
- 国全体で取り組んでいるインバウンド拡大についても記載すべき。
- 世界のダイナミックな動きに比べ、国内・県内の動きはおとなしいのではないかと。
- 世界と日本の動きは関連する。両者を分けて記載するのが良いのか検討が必要。
- アジア地域圏の経済成長の伸びが高いので、アジア圏との経済面で関係づけたらいいか。
- ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックは長野県の魅力発信の機会
- 人生100年時代を見据えた暮らし、学び、働きの変革が不可避のため、人生計画の見直しが求められる。

2 長野県の特長

- 地域間格差の存在や高齢化率が高いことなどの弱みも認識する必要がある。
- 特産物の多さ、木と森の文化、豊かな自然
- トップレベルの健康長寿と健康的な食事

【重点政策の方向性 (論点2)】

総論

- テクノロジーの急速な発展は全ての政策に影響を与える。第4次産業革命のインパクトはあらゆるところに影響を及ぼす。
- どのような長野県を目指すのか、市町村や地域を調整する立場として、方向性を示すことが必要。
- 抜け落ちている分野はないのだろうが、これだと何をしたいのかわからない。複数の問題を付随的に解決できる政策に焦点を当てるべき。

- 官民の役割分担が必要。行政の役割は社会の構造改革。
- 行政が「直接的に関与できて、根本的に解決できる」ものではないことは敢えて重点政策に記載せず、①産業（高速交通や情報通信ネットワークの充実は産業の中に入れる）、②教育、③全ての人活躍できる持続可能な社会（女性活躍、働き方改革、脱炭素社会、災害への対策強化等）に的を絞る。

1 産業の生産性向上、世界とのつながり

- 日本の文化、伝統的精神や匠の精神などを活かした新産業づくり、生産性向上が必要。
- サービス産業、行政分野の生産性が低い。テクノロジーの活用が大切。
- サービス産業やソフト産業の新しいビジネスモデルを構築することが必要。
- ソフト産業を育てるため、アジア圏（オーストラリアやバングラデッシュ）と戦略的に連携し、人材を育成したらどうか。
- 森林整備や管理に加えて、森林・林業に教育・医療・福祉などの付加価値を付けると、本県の強みが活かせる。
- 食は範囲が広すぎるので「健康」などにターゲットを絞るべき。
- 食については、農業や食品産業につながる信州ブランドとして捉えてはどうか。
- 信州ブランド食品の輸出にしっかり取り組む必要がある。
- 全国有数の温泉地や宿泊施設の有効活用が必要。
- 産業大県を目指す（研究型の製造業、長野県ならではの農業、世界水準の観光）
- 森林・里山整備や木材製品のブランド化を進め、付加価値を高める。
- 新しい企業の創設と生産性の向上（新産業の創設とイノベーションの推進、新農産物の革新的生産と高付加価値加工、世界的地方山岳型観光産業の確立、国家的研究機関と研究開発型企業の集積）が重要。

2 新たなライフスタイルの実現

- 異質なものを許容する力を身につけることが必要。異質なものに触れる場があれば対応できるようになる。
- 長野県で学び、働き、一生生活できる「郷学郷就」を支える社会づくりが必要。
- 住環境インフラの整備（効率的で美しいまちづくり、既計画の高速交通網の早期実現と松本空港の国際化）が重要。

3 誰にでも居場所と出番がある

- 若者が夢を持ち才能を発揮し、社会の役に立てるような環境づくりや教育が必要。
- 女性が活躍できる社会の構築に力をいれるべき。ダイバーシティに対する本気度を示してほしい。
- 女性の介護人材が東京に出てしまうと、県内の出生数がさらに減ってしまう。女性が暮らしやすい地域にすることが必要。
- 住民組織による助け合いや共助とタイアップして、安心した暮らしの基盤を作る。

- 公民館などを利用し、住民が集って地域のことを話し合い改善できる場がほしい。
- 外国人観光客の受入環境整備、外国人労働者の相談体制構築、外国人配偶者の孤立防止、子どもの日本語教室。
- 女性（母親）、高齢者、外国人等のダイバーシティは、豊かな長野県を実現する上で重要。
- 貧困・片親家庭への支援（家庭力の回復、食事の提供・放課後教室による学習支援への高齢者の経験活用、給付型奨学金の創設、新たな働く場の提供）
- 「女性の輝きを応援」ではなく、男女共生社会（男女の意識改革）を応援する。
- 子どもの未来応援に幼児教育を加える。

4 人と自然の「いのち」を守る

- 命を守るために地域のつながりやコミュニティの再構築に力を入れてほしい。
- ACEプロジェクトを進めるために、毎日の食事と運動をカレンダーに書きとめる取組を進めてはどうか。一定期間経過後に振り返ることで効果が確認できる。
- まず、100%自然エネルギー活用と宣言し、その実現を検討することで、テクノロジーが集まってくる。
- 所有者がわからず放置されたままの空き山林対策に力を入れることは長野県ならではの取組になるのではないか。
- 木と森の文化は、観光など人を惹きつける力になる。
- 農地の平地林化や屋敷林づくりなど、身近な森林を作ることは、観光にも心の安寧にも活かせる。
- 「信州の食の満足度向上」に信州 ACE プロジェクトを結びつけてはどうか。
- 健康水準の高さという特色を活かす。

5 学びの県

- 海外に出て学び、帰ってくるグローバル人材育成の取組があっても良い。
- 教員の資質向上も重要だが、職場、コミュニティ、特に家庭の方向性が揃うことが重要。
- 生きる力に加え、自ら考え主張する力を養うことが必要。
- 長野県で育つ子どもたちが未来像を描くことができるような取組を学校教育に取り入れられないか。
- 「信州農業学科」等そこでしか学ぶことができない個性的な学科をつくるなど、個性的で資質の高い人材を育成できると良い。
- 長野県の教育レベルは低い。粘り強さや想像力を持った「強い子ども」を育てるため、家庭教育に力を入れるべき。
- グローバル社会の中でどこでも生き抜くことができる力は大切。
- 教育を変えるには、先生が変わることが大切。教員を夢のある職業にする環境改善が必要。
- 幼児教育に投資すべき。公私、幼保を越えて一貫性のある体制づくりが必要。
- 「地域に貢献する学校」という表現に違和感がある。イノベーションを生み出しワクワクする活躍の場を提供していれば、自然に長野に戻ってくる。

- 県民全体への木や森の文化、農業の体験学習を実施する。
- 教育大県の復活（幼児、義務、高等、家庭、職場教育）。

6 地域が輝く

- 地域の個性が集まって、つながり、一緒に何かに取り組むことが必要。
- 県の役割は地域の特長をつなげること。